



AA日本ニューズレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱916



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F

TEL 03-3590-5377
FAX 03-3590-5419



No.53

第7回GSM開催される 常任理事会設置案可決

AA日本20周年記念集会の第2日に行われた。全国代議員集会にて、全国の代議員の投票により、常任理事会設置案が可決されましたが、その発足に向けた話し合いをメインテーマに、7月21日から23日の3日間、第7回ゼネラルサービスミーティングが、例年通り、東京の深川で開催されました。

今年度のGSMは諸経費節約のため、宿泊者は大部屋に詰め込まれました。各分科会も宿泊者の和室を利用して行われたため、たまたま深夜にまで及んだ分科会の部屋を提供した宿泊者は寝不足を余儀なくされ、さらには隣の布団からの強烈な雑音に悩まされた人もかなりいたようで、とても明日の会議に備えて休息を取るといふ状況とはほど遠く、評議員のかたがたには気の毒なことをしました。(この3日間で2キロもやせた事務局メンバーもいたそうです)。

今回は、29名のGSMメンバーと各地域からのセントラルオフィス・スタッフに加え、数多くのオブザーバーが出席し、計50名ほどの参加者が事務局メンバーたちの手際の良い司会のもとに活発な討議や分かち合いを行いました。

GSMメンバー(有権者メンバー)の内訳は、まず評議員として、関東甲信越を除く全国6地域から計11名と関東6名、さらに今回初めて新潟地区から評議員が選出されたため甲信越として2名が参加して合計19名、そしてオフィス運営委員6名、JSOスタッフ3名、WSM評議員1名の計29名です。

また、年に1度のGSMの際に、セントラルオフィス・スタッフ会議が同時に開催されるため、スタッフの参加費についても、GSMメンバー同様、分担金制度が設けられています。今回もこのスタッフ会議で、全国6地域のオフィススタッフどうしの情報の交換や、オフィス業務を進めるに当たっての知恵や経験の分かち合いが積極的に行われました。い

っそうの地域サービスの向上が期待されます。

今回のGSMはもっぱら、常任理事会発足のための具体的な話し合いにあてられました。全体会議ばかりでなく、具体的な項目案件については分科会形式を取ったため、意見交換がいつそう活気を帯び、参加者どうしのつながりもいつそう深められました。このような分科会形式は、今後もぜひ継続したい非常に効果的な方法だったという印象を受けました。

一方、JSO運営委員によるJSO財務報告のなかで、現在のJSO財政が予断を許さない危機的状況にあることが判明し、その財政立て直しに関する緊急討議が、予定の休憩時間を大幅に削り、数回にわたって行われました。いろいろな意見が交換されたなかで、最終的に出た案は、別途に財務ワーキング・グループを発足させ、具体的な対策案を煮詰めて実現させていこうというものでした。さいわい、その場でワーキング・グループ実行委員長に立候補の申し出があり、ただちに承認され、早速実現に向けての提案がなされました。ワーキング・グループの提案はこのニューズレターの別項に記されています。

最終日には、後期WSM評議員の任期満了にともなう次期WSM評議員選挙が行われ、元・中部北陸地域評議員の湯浅氏が満票で選出されました。世界のフェローシップの中の日本のAAとしての分かち合いがより深められることが期待されます。現WSM評議員によるWSM参加報告もやはり3日目に行われましたが、WSMという世界につながるサービスの経験がその評議員自身を大きく変化させたように見受けられました。

また、昨年来の活動として、「AA日本20周年記念集会」と「アジア・オセアニア・サービス・ミーティング」の開催報告も行われました。

なお、常任理事会設置に関する決定事項は以下にリストで示してあります。

第7回AA日本ゼネラルサービスミーティング

AA・日本常任理事会構成

	A 類 常 任 理 事 (ノン・アルコール)	B 類 常 任 理 事 (アルコール)
人数	2名	6名 地方選出常任理事..... 2名 全体サービス..... 4名
任期	2 × 3期まで	4年 × 1期 再任を認めない
選出方法	常任理事会委員会が委嘱	地方常任理事 東日本圏..... 1名 (北海道・東北・甲信越) 西日本圏..... 1名 (中部北陸・関西・中四国・九州・沖縄) ・当該圏評議会経験者2名の推薦 ・当該圏の評議員と常任理事が選出する 全体サービス常任理事..... 4名 ・関東在住で、J S O職員あるいは評議会 経験者2名の推薦 ・評議会メンバーにより選出する
立候補資格		・ソプラエティ7年以上がめやす ・評議会メンバーまたはそれに準ずるサー ビス活動の経験者
選出基準		第3レガシ方式による
信 任	毎年の評議会に1 / 2以上の信任を受ける * A類、B類常任理事とも、評議会の3 / 4の決定によって任期中でも退任要求ができる	
欠 員	退任・死亡・辞任による欠員は、速やかに補充選挙を行う 退任者の残した任期の補充を原則とし、再選を妨げない	
会合の頻度	常任理事会で協議して決定	
評議会構成	6地域の評議員 + 関東甲信越評議員 $6 \times 2 + 8 = 20$ A類常任理事 + B類常任理事 + J S O職員 $2 + 6 + 2 = 10$ 当面の採択事項ではJ S O職員の票数を2にして、評議員が評議会構成メンバーの3分 2以上になることを実現する	
初年度特例	現オフィス運営委員会を解散する。 現A類運営委員2名がA類常任理事として転任(任期は4年まで) 現B類運営委員の2名がB類常任理事として転任(任期は2年) 他のB類運営委員は95年度末をもって退任とし、その指名は運営委員会が95年度 G S Mで確定(西日本圏1、全体サービス1) 新たにB類常任理事を4名選出。(東日本圏 1、全体サービス3) 選出方法と立候補資格については、上記の「評議会」を「G S M」に「常任理事」を 「オフィス運営委員」に読み替える。	
95年度選出	第1回B類常任理事選出選挙事務は東北地域が担当する。選挙日程等は東北地域に一任す る。	
評議会設置	96年1月より、常任理事会とともにAA日本評議会を設置する。	

3月の全国代議員集会開催に向けた準備は、昨年
から九州地域委員会が全面的に担ってくださ
りましたが、今回の常任理事選出選挙にともな
う選出業務のいっさいは東北地域委員会がこ
ころよく引き受けてくださり、東北の若い力
がまばゆいばかり

に見えました。このようにして、全国的な協
力、支援体制がよいよ深まり、日本のAAも
それにともなう全体的な成長を続けてゆく
のだという思いが、ひしひしと感じられま
した。

ワーキンググループはあなたの

『やわらかい頭と力こぶ』を待っている！

金融相場の変動、リストラ、就職難と、バブル崩壊後の話題には事欠かないこの世の中の流行に、A Aメンバーも乗り遅れないようにと努力しているつもりはないのに、日本のA Aのフェローシップは20年間も、今の世の中の状態を維持し続けている。

はからずも、今年のG S Mで、J S Oの財務状況がサービス活動に支障をきたすほどまでに落ち込んでおり、どう打破していくかの議論が白熱し、最終日の全体会議では、各地域の評議員の一人一人が、「今、自分たちが行動を起こすときだ！」という熱意を表明し、「ワーキング・グループを作って全国のグループメンバーに協力をお願いしていこう！」という声が上がった。そして気が付いたら私は「その役割を自分にやらせてください」と手を挙げていた。A Aのプログラムをやって気づかされたことだが、「豚もおだてりや木に登る」のたとえどおりの私の性格上の欠点は、いつまでたっても治らないようだ。

即、その場で各地域評議員に対して、具体的な提案を文書にして8月の第一週までにJ S Oに送ってくれるよう依頼したところ、ぞくぞくと提案が寄せられてきた。その熱意に感謝すると同時に、ならばもっと幅広く呼びかけ、全国のグループのメンバーの「やわらかい頭と力こぶ」に頼ってみようというのが小生の結論。行動を起こすには一人では何もできないが、当日の会場ですでに東京3名、大阪1名、東北1名のメンバーと一緒にやりましょうと力強い申し出をしてくれた。

「献金が不足している」「赤字が 百万円だ」と、毎月各グループに報告が送られているが、「そんなことはもう分かった！だったら何をして欲しいのか具体的に言ってくれ！」というのが全国のグループのメンバーの声だと勝手に解釈して、次のようなお願いを呼びかける。提案は「だれかに...してほしい」というものよりも、「わたしが」といった主体性が感じられるものを期待します。

私が今できる支援の具体的提案

グループが今できる支援の具体的提案

地区が今できる支援の具体的提案

地域が今できる支援の具体的提案

そこで出された具体的提案を1冊のパンフレットにし、J S Oを支えるメンバーの具体的提案集と名付け、紹介していこうと考えています。

ではここで、私たちワーキンググループから、即、行動できる12の提案を紹介します。

ミーティングにご無沙汰のメンバーに「ミーティングに出よう」というメッセージを送る。

自分のスポンサーに協力の電話をかける。

保健所、福祉事務所、病院などに「BOX 9 1 6」を送る。

バースディの色紙に替えて「今日を新たに」を送る。それぞれのメンバーは自分のバースディの日のページにメッセージを書く。

「どうやって飲まないでいるか」の本を使ったミーティングを開く。

「ビッグブック」と「ビッグブックのテープ」を使ったミーティングを開く。

1カ月のバースディには「スポンサーシップ」の本を、3カ月には「A Aグループ」を、6カ月には「絵で見る12の伝統」を送る。

代議員には「サービスマニュアル」と「12の概念」を送る。

ものぐさなメンバーは、銀行口座から自動引き落としとして個人献金や誕生献金を送る。(注・J S Oの自動引き落としは、現在のところ、住友銀行信濃町支店に口座を開いていただければ可能。詳しくはJ S Oにお問い合わせください)

「スピーカーズ・ミーティング&ダンス」とか「オープン・スピーカーズ&カラオケ」とか、A Aミーティングと催しをドッキングさせたイベントをグループや地区や地域単位で開く。

何かを買ったつもりで「つもり献金」をする。

J S Oのスタッフに電話をして、気持ちのうえで支える。

とにかく私たちは全員が、A Aにきて「何でもする気になった」という経験をもつ。そしてあのステップ1を受け入れた、ひろい心の持ち主ばかりなのだ。さらには「まだ苦しんでいる仲間メッセージを運ぶ」ためにA Aメンバーとしてグループに所属しているのだ。だから、ワーキング・グループの私たちは、全国からグッドアイデアの支援策と、実際に行動を起こした経験を伝える便りが届くことを確信している。

もう、ひと任せではだめだ！

自分から始めよう！

ワーキンググループ実行委員長 今井

新刊案内 第13回ワールドサービスミーティング最終報告書

第13回ワールドサービスミーティング「最終報告書」ができました。第1回アジア・オセアニア・サービス・ミーティング報告もカバーされています。数に限りがあります。ご希望の方はお早めに。

「第13回ワールドサービスミーティング」
— 基本に戻ろう — 最終報告書
1994年10月9~13日 南米コロンビア、カルタヘナにて開催

付録：第1回アジア・オセアニア・サービス・ミーティング報告
1,400円 (¥310円)



報告書から一部要約してご紹介します。

「世界中に10万以上のAAグループがあり、そこで回復中のメンバーは200万人以上にのぼると言われている。ここまでの道のりは大変ではあったが、実りあるものだった。しかしながら世界の人口の2パーセントはアルコールの問題で苦しんでいるという調査研究もある。だとしたら、まだ1億6千万人の人達がAAを必要としているということだ。ぼうぜんとして残される数字だ。まだまだ私たちにはやるべきことが非常に多く残されている...」

伝統5

各グループの主要目的はただ一つ、まだ苦しんでいるアルコール中毒者にメッセージを運ぶことである。



ワタシノ責任

ダレカガ、ドコカデ

助ケヲ求メタラ

必ズ、ソコニAAノ手が

アルヨウニシタイ

ソレガ——ワタシノ責任

お詫びと訂正

「AA日本ニューズレター」No. 52の最終ページの新刊案内で、価格表記に誤りがありました。AA日本20年の歩み「いくたびもの出会いを重ねて」の定価は2,200円 (¥310円) です。お詫びを持って訂正させていただきます。